

令和3年度園評価

目標達成	園の理念、方針、目標を新職員も含め園内研修で再確認、共通理解をすることで保育課程カリキュラム等、日頃の保育に意識した関わりを心がけ、又、令和3年度も引き続き主体的保育、環境構成に取り組む姿勢が見られ、全クラスで目標を立て取り組んでいた。
保育士活動	指針の中での主体的な活動、対話的な学びという事を意識し保育者が主導的に何かをやらせるのではなく、自発的・意欲的に関わられる環境構成を考え、言葉かけ等も意識した保育活動を行っていくという活動を心掛けていく姿勢・意欲を感じた。
環境整備	環境整備に関しては室内環境は少しずつ整ってきた。令和3年度は引き続き園庭整備に力を入れこども達がワクワクする園庭が完成した。安全面ではこれから課題も出てくると思うがこども達が笑顔で遊びを展開している。
衛生・健康	令和3年度もコロナ禍の中での保育となった。感染予防、防止を心掛け、感染拡大につながらない様対策を取り、室内は常に清潔に清掃、消毒を徹底した。コロナ関連で玄関前に体温検知器・オゾン発生器を設置し換気や室内の湿度に配慮した。園でも行事対応や感染防止対策等に追われた年で2クラス(1.3歳児)2週間閉鎖となった。
保護者支援	保護者との関わりも良好で丁寧に関わっている。気になる子や気になる家庭に関しては保護者面談を通して家庭背景を聞き、園と家庭と協働に関わり方を共有することで子どもの育ちに大きく影響する事を伝える。又、虐待等の早期発見など子ども達の様子をよく見て報告をする体制は出来ていた。子育ての悩みや地域の方の保育園に入れたい相談も電話や来園で対応した。又、関係機関との連携も取れていた。
地域との関わり	園目標である「あいさつのできる子」は散歩や来園される方や地域との関わりの中で積極的に出来ていた。令和3年度もコロナ禍の中で地域の小学校・中学校の体験学習の受け入れ中止や施設訪問中止等で地域の関わりがあまり出来なかったのが残念だった。
研 究	令和3年度も「保育実践研究」として副主任・研究チームを中心に主体的な保育環境構成に取り組み、全体園内研修や研究チーム研修で学び合いの時間を持った。県社協の研究発表のフリー発表が結局中止となったが2年間じっくりと取り組んだ事でこども理解がより深まり、又、振り返りの時間が多く持てた。園内研修後は振り返りシートを提出する事で一人一人が保育に関してより意識しての関わりを心がけているのが理解出来た。各クラス取り組んできた事を繋げながら育ちに合わせた環境構成について今後も研究を進めていく。
職員処遇	有休の5日以上消化、週休は年度内で確実に消化するよう声かけをした事で令和3年度も殆どの職員が有休・週休を消化していた。例年の課題ではあるが休憩時間が中々取れない状況にあるのでより工夫をして休憩が取れる環境を今後も考えていく。処遇面では、処遇改善Ⅰは殆どの職員に支給、処遇改善Ⅱはキャリアアップで専門リーダー等が任命を受け処遇を受けた。又、臨時特例給付金(処遇Ⅲ)が国の制度で交付が決定し2・3月分支給令和4年度も継続支給となるが臨時ではなく継続支給を国に対して要望したい。

総括	<p>当園の評価としては殆どの職員が理念に基づき、感謝・感動の気持ちを持った職員が多いと感じる。又、子ども達の良いところを見つけ自己肯定感のある子に育てるという意識を持って保育をしている職員も多いと感じる。令和3年度も日々の保育、行事の準備、カリキュラム作成、会議等に追われ、ゆとりや余裕がない様にも見えたので行事等の見直し等も考えていく必要があると感じる。又、ICT化でコドモンシステムを導入した事、生活発表会も0.1歳児クラスは令和2年度同様DVD編集の中で普段の保育での成長した姿も伝えて保護者からも好評だった。全クラスで編集作成した経験でこども達の写真・動画の撮り方、切り取り方のスキルが上がり内容も向上した。年長クラス(2.3.4.5歳児)は体育館でコロナ対策をしながら入れ替え制で生活発表会を開催したが今後もコロナと共存しながら、行事等の持ち方を考えていく必要があると感じる。</p>
----	--